

## 生物・生態サイトカード

通しNo.	C-4		更新日	2025/3/19		
サイト名	かんど がわ よつであみりょう 神戸川におけるアユの四手網漁					
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 動物 <input type="checkbox"/> 植物				
	生息地	出雲市佐田町(神戸川中流)				
	分類					
	管理団体/ 保護団体/ モニタリング	神戸川漁業同組合				
	留意点					
サイトの解説	生物・生態	<p>夏を過ぎたころから、神戸川中流部の川べりに四手網の足場が目立ち始める。落ちアユを漁獲するためのもので、産卵のために川を下ってくるアユを、大型の四手網で掬い上げるものだ。</p> <p>漁は川の水が濁るほどの雨が降り、増水した流れに乗じて一斉にアユが川を下って来る時などに行われる。アユは下るときに瀬や堰などがあると一旦立ち止まり、流れのゆるやかな瀬の上流部で回遊するなどの習性をもっている。神戸川の四手網漁は、このようなアユの習性を巧みに取り入れた伝統漁法で、四手網はアユが一時滞留する場所にセットされる。漁獲高の差は、網をセットする場所の選定や、どのような川の状態の時に漁を行うなど、漁師の戦略の差によって決まる。</p> <p>竹を十字型の四手に組んでその先に網を張り水中の魚を掬い上げる漁法は、日本の各地や東南アジア地域など海外でも広く行われている。宍道湖では、以前船に設置した小型の四手網でシラウオを掬い取る漁が名物となっていた。しかし、アユを狙った大型の四手網漁は、神戸川でしか確認されていない極めて珍しい漁法であることはほとんど知られていない。</p> <p>ちなみに、神戸川では斐伊川や江川、高津川などで行われている刺し網漁は禁止されている。瀬張とも呼ばれるアユを大量に捕獲する刺し網漁は、漁業資源の保護の観点から問題も指摘されている中で、神戸川の四手網漁はアユの生産量とよく合致した、自然に優しい持続可能な漁法であることに注目したい。</p>				
	地形・地質、歴史・文化等	<p>神戸川は、女亀山(飯南町)に源を発し中国山地を北流しながら大社湾に注ぐ。途中に来島ダム(来島湖)、志津見ダム(志津見湖)が建設されている。比較的大きな支流として頓原川や波多川がある。立久恵峡の見事な断崖絶壁は神戸川の左岸に形成されている。</p>				
写真・図等		 				
		<p>神戸川の四手網漁</p>		<p>堰の上流部に設置された四手網</p>		
参考文献	佐藤仁志(2010)創立60周年記念 神戸川漁業協同組合史. 56-57. 神戸川漁業協同組合。					